



Sonzera 20 Combo USER'S MANUAL

PRSアンプの使用について

Sonzera 20 Comboをお買い上げいただきありがとうございます。アンプを安全に使用するため、本書をよくお読みください。本書をよく読むことは、多くの機能を十分理解してアンプの性能を最大限に引き出すことにつながります。

□アンプ起動時の注意点

1. スピーカー、またはスピーカー・キャビネットが高品質なスピーカー・ケーブルで、アンプのスピーカー・アウトプット・ジャックと適切なインピーダンスで接続されていることをご確認ください。
2. 電源ケーブルが、グラウンド（アース）が取れている電源コンセントに接続されていることをご確認ください。
3. アンプを使用していると、徐々に本体が熱を持ちます。そのため、少なくともアンプの周辺15cmは、アンプの熱を逃がすスペースとして確保してください。アンプを壁や他の機材に隙間なく寄せて使用すること、また、他のアンプやストープなど、熱源となるものの近くでの使用はおやめください。使用中、アンプの背面にカーテンなど、可燃物を置くことはおやめください。アンプ本体を布などで覆うなど、熱を逃がすことを妨げる行為はおやめください。アンプ上部にドリンクなどを置くことはおやめください。
4. 真空管を保護するため、本製品にはスタンバイ・スイッチが搭載されています。電源を入れる前に必ずスタンバイ・スイッチがスタンバイ・ポジションになっているかをご確認ください。電源を入れた後、2分ほど真空管が温まるのを待ってからスタンバイ・スイッチをオンにしてご使用ください。また、初めて本製品を使用する場合は、背面の真空管が全て点灯しているか、必ずご確認ください。
5. 本製品は大きな音量を出す設計になっているため、アンプの電源を入れる前に、必ずヴォリューム（レベル）がゼロになっていることを確認してください。ギター・ケーブルをインプット・ジャックにしっかり差し込んだことを確認の上、ヴォリュームを徐々に上げて音量を調節してください。



本製品では大音量での演奏が可能ですが、長時間の演奏は聴覚に支障をきたす可能性があります。あくまでもご自身の責任の範囲でご使用ください。また、本製品に異常を感じた場合、直ちに使用を中止し、購入されたPRS Officialディーラーへご相談ください。PRS Officialディーラー以外で修理・改造等行われた場合、その後サービスの対象外となりますので予めご了承ください。本製品を使用する際は、必ず100Vの電源をご使用ください。

Sonzera 20 Combo フロントパネルコントロール

• INPUT (インプット)

モノラル仕様のギター・ケーブルを使用して接続してください。

• CHANNEL SELECT (チャンネル セレクト)

GAIN CHANNEL(ゲイン・チャンネル)とCLEAN CHANNEL(クリーン・チャンネル)を選択する時にこのスイッチを使用します。また、フット・スイッチが接続された場合、このセレクター・スイッチは無効になります。

GAIN CHANNEL (ゲイン・チャンネル)

• BASS (ベース コントロール)

ゲイン・チャンネルの低音域を調節するつまみ。低めに設定すると高音域と低音域がタイトなサウンドになり、高めに設定すると 重心が低く、深みのあるサウンドになります。

• MID (ミドル コントロール)

ゲイン・チャンネルの中音域を調節するつまみ。低めに設定すると高音域と低音域が強調されたサウンドになり、高めに設定するとファットなサウンドになります。

• TREBLE (トレブル コントロール)

ゲイン・チャンネルの高音域を調節するつまみ。低めに設定するとウォームなサウンドになり、高めに設定するとブライتناサウンドになります。

• LEVEL (レベル コントロール)

ゲイン・チャンネルの音量を調節するつまみ。

• DRIVE (ドライブ コントロール)

ゲイン・チャンネルのプリアンプのボリューム・歪み・サチュレーションを調節するつまみ。

• GAIN BRIGHT (ゲイン ブライト スイッチ)

ゲイン・チャンネルの高域補正を行うスイッチ。小音量時の高域補正に特に有効に作用します。

CLEAN CHANNEL (クリーン・チャンネル)

• VOLUME (ヴォリューム コントロール)

クリーン・チャンネルの音量を調節するつまみ。

• TREBLE (トレブル コントロール)

クリーン・チャンネルの高音域を調節するつまみ。低めに設定するとウォームなサウンドになり、高めに設定するとブライتناサウンドになります。

• BASS (ベース コントロール)

クリーン・チャンネルの低音域を調節するつまみ。低めに設定すると高音域と低音域がタイトなサウンドになり、高めに設定すると 重心が低く、深みのあるサウンドになります。

GLOBAL (両チャンネル 共有コントロール)

• REVERB (リヴァーブ コントロール)

リヴァーブ量を調整するつまみ。

• PRESENCE (プレセンス コントロール)

パワーアンプ部の明瞭度 (ネガティブフィードバック) を追加・調整するつまみ。

Sonzera 20 Combo リアパネルコントロール

• INPUT POWER (インプット パワー)

本製品を使用する際は、必ず付属の電源コードをご使用ください。また、本製品を置く場所を移動する際、必ず電源ケーブルと、他に接続されている機器(ギターやエフェクターなど) 全て外してから行ってください。

• FUSES (ヒューズ)

本製品には、リアパネル上から直ぐにアクセスできるヒューズと、出来ないヒューズがあります。ヒューズの交換を行う時は、必ずヒューズ本体に記載されている仕様と同じものを用意してください。異なるヒューズを使用した場合、製品に致命的な損傷が生じ、思わぬ事故につながる可能性があります。また、ヒューズを交換する際、必ず電源ケーブルと、他に接続されている機器(ギターやエフェクターなど)を全て外してから行ってください。

• MAIN FUSES (メインヒューズ)

メインヒューズ用のトレイは、主電源用のソケット・モジュール内に組み込まれています。なお、ソケット・トレイには、2つのヒューズをセットすることができ、ひとつはスペア用となります。ヒューズのタイプやスペックは、使用する国や地域によって異なりますので、詳しくは主電源用ソケット・モジュール下に記載されている内容をご確認ください。

• B+ FUSES (B+ ヒューズ)

B+/H.T.ヒューズは、MAIN SOCKET(メインソケット)横のリアパネルからアクセスすることができますが、このヒューズ交換を行う際は、必ず事前に購入されたPRS Official ディーラーへ、交換するヒューズが正しいものかご確認ください。またヒューズの交換作業を yourself で行うことが不安な場合は、必ず購入された PRS Official ディーラーへご相談ください。

• POWER&STANDBY (パワー&スタンバイ スイッチ)

電源を入れる前に必ずスタンバイ・スイッチがスタンバイ・ポジションであるか確認をしてください。パワー・スイッチをオンにして2分ほど待ってからスタンバイ・スイッチをオンにしてご使用ください。初めて使う場合は真空管が点灯しているか確認してください。電源を切る際はVOLUME、LEVELのつまみが0になっていることを確認してから、スタンバイ・スイッチをスタンバイ・ポジションにし、最後にパワー・スイッチをオフにしてください。

• EFFECT LOOP (エフェクト ループ)

本製品にはシリーズ(直列)接続のエフェクト・ループが搭載されています。SENDジャックをエフェクターのINPUTと接続し、エフェクターのOUTPUTをRETURNジャックに接続してください。また、ケーブルが拾うハム・ノイズを最小限に抑えるため、エフェクト・ループに使用するケーブルはある程度の長さがあるものを使用し、エフェクター本体をパワー・トランスや電源ケーブルからは距離を取ってご使用ください。

• BIAS JACK & POT (バイアス ジャック&ポット)

パワー管の消費電流をミリボルト単位で測定する端子です。ひとつの端子につき、1本のパワー管が運動しています。1mVと測定された場合、そのパワー管には1mAの電流が流れていることになります。中央のバイアス端子がグラウンドになり、測定する際、テスターの黒いリード棒 (COMMON端子に接続)をこの端子に差し込みます。バイアスジャックでの測定により、各パワー管が正常に動作しているかの確認することが出来ます。なお、バイアス調節と真空管の交換に関しては、ご自身で行った場合、思わぬトラブルにつながる可能性がありますので、必ず購入されたPRS Official ディーラーへご相談ください。

• FOOTSWITCH (フットスイッチ ジャック)

付属のフット・スイッチを接続する際に使用します。フット・スイッチを使用することにより、チャンネルの切り替えが足元で行えるようになります。アンプの故障に繋がる恐れがあるため、付属のフット・スイッチ (*PRS FS2S) 以外は絶対に使用しないでください。また、フット・スイッチが接続された場合、フロント・パネル上のチャンネル・セレクトは無効になります。

Sonzera 20 Combo フロントパネルコントロール

・SPEAKER JACKS (スピーカー ジャック)

スピーカー・キャビネットと接続する際に使用します。4Ω(オーム)の平行接続×2、8Ω(オーム)の平行接続×2、16Ω(オーム)×1の計5つとなります。使用する前に、必ず本製品と使用するキャビネットの入力値とインピーダンス(Ω)を確認し、適切なものをご使用ください。異なるインピーダンスのジャックを同時に組み合わせ(16Ωのジャックと8Ωのジャック、8Ωのジャックと4Ωのジャックなど)、使用することは絶対におやめください。また、インピーダンスの異なるスピーカーを2台同時に使用することもおやめください。16Ωのスピーカーを2台平行(並行)接続する際は8Ωのジャックを2つ、8Ωのスピーカーを2台平行(並行)接続する際は、4Ωのジャックを2つ、それぞれご使用ください。正しいインピーダンスで接続されなかった場合、チューブ・ソケットやパワー管の破損、及びアンプ本体の故障に繋がる可能性がありますので、正しい接続方法でご使用ください。

□真空管

使用する頻度や使用方法によって異なりますが、真空管は消耗品です。また、真空管はサウンドの要となるパーツのため、正しい使用方法を長期間使用していると真空管が動作不良を起こすことがあるため、不具合が起きた際の対処法を事前を知っておくとよいでしょう。まずは定期的な点検として、真空管のフィラメントのオレンジ色以外に、内部で何か他に発光しているものがないか確認をしてください。真空管に過剰な電流が流れた場合、オレンジ色ではなく、鮮紅色に発光する場合があります、この場合、内部で何かしらの異常が起きていることを意味します。

また、以下のシチュエーションも考えられます。

1)フィラメントが光っていない。

2)真空管の内部で小さな火花が上がっている。

これらの状態は、真空管に深刻な問題があることを示しており、直ぐに使用を中止し、その原因を確認する必要があります。

アンプから発するノイズに関しては、その原因が真空管であることが多く、プリ管はスピーカーキャビネットの振動を受けて、ノイズを発振する場合があります。プリ管に関しては、交換後、特に別途調整作業等は必要ありませんが、パワー管の場合は交換後、バイアス調整が必要となります。パワー管交換後、最初に内部が鮮紅色に点灯していないかの確認後、バイアス調整を行ってください。パワー管のバイアスは30mV(±5mV)で行ってください。2本のパワー管のバイアス差が5mVを超える場合、ノイズの発生や本来のサウンドにならない可能性があります。そのため、マッチングされているパワー管を購入・使用することをお勧めします。

2023年10月作成

 **注意!** : 内部回路及びパーツの損傷及びアンプ本体の故障に繋がるため、真空管を抜いた状態では、絶対にアンプの電源を入れないでください。

 **注意!** : 電源をオフにし、ケーブルを抜いた後でも、コンデンサー内部には電気が滞留している場合がありますので、ご注意ください。

製品に関するお問い合わせ

Paul Reed Smith Guitars カスタマーサービス

support@prsguitars.co.jp